

(Translation)

Case: JP35(1960)-34030U

Title: Pacifier with Whistle and Bell

Applicant: Kazuo SEKI, Japan

Brief Description of the Drawings:

Fig. 1 is a front view of the present invention.

Fig. 2 is a plan view of the present invention.

Fig. 3 is a side view of the present invention.

Fig. 4 is a bottom view of the present invention.

Fig. 5 is a longitudinal sectional view of the present invention taken along the line A-A in Fig. 1.

Claim:

A structure of a pacifier with a whistle and a bell, including a flange member 2 having a circular hole 3, and an elongated nipple rubber member 1 fitted in the circular hole 3, wherein:

one end of a handle 4 is inserted into the rubber member 1 through the circular hole 3;

the other end of the handle 4 is fixed in a groove 7 of a bell member 10;

an inside of the bell member is separated by a whistle sound generating plate 6;

a small hole 5 is formed in the bell member 10 and a bell ball member 8 larger than the small hole 5 is included in the bell member 10; and

a blowing slot is formed in an end of the bell member 10.

120 B 91
(120 B 64)

特 許 庁

実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告

昭35-34030

(1960)

公告 昭35. 12. 26 出願 昭34. 10. 15 実願 昭34-55310

出願人 考案者 関 一 男 東京都世田谷区下代田町74
代理人 弁理士 平 元 槐 雄

(全2頁)

おしやぶり付笛入鈴玩具

図 面 の 略 解

図面は本案品を示すものであつて、才1図は正面図、才2図は平面図、才3図は側面図、才4図は底面図、才5図は才1図のA-A線における縦断面図である。

実 用 新 案 の 説 明

本案は主として乳幼児の用いるおしやぶり付玩具に関するものであり、図面に示す如く鍔体2の中央に円孔3を穿設して長乳房状ゴム体1を嵌込んだおしやぶりにおいて、その円孔3に握り把柄4をゴム体1の内側へ挿入して固定させ、把柄4の他端は鈴体10の窪溝7に定着し、而して鈴体10はその内部を笛音発生板6にて区割し、その一側には小孔5を穿設し且つその小孔5より大なる鈴玉体8を内包せしめ、他側には吹口9を穿設して成るものである。なお図中11は笛音発生板6に取付けてある舌片であり、この舌片11及びゴム体1を除いてはこれを全部スチロール合成樹脂材料にて製作するを可とする。鈴玉体8はこれを五色等に彩色し、鈴体10の全体を透明又は半透明とすれば一層効果的である。

本案品は上記の如き構造から成つていて、これをおしやぶりとして用いると同時に、握り把柄4の他端に固着された鈴体10を軽く振れば中の鈴玉体8が鈴体10の内壁に当つて美しい鈴の音を聞かせることができ、これに併設された笛を吹口9より吹けば舌片11及び小孔5を通して爽快なる笛の音を聞かせることができる。鈴玉体8及び鈴体10をスチロール合成樹脂製とすればそ

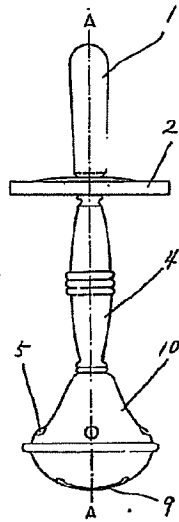
の鈴音は金属音に近似し、その音響は一層美しさを増大する。鈴玉体8は各種に彩色してなお鈴体10を透明又は半透明とすれば音を発生させなくとも、十分に乳幼児の目を楽しませることができ、もし吹口9より息を強く吹込むならば、鈴玉体8をも振動させて、笛音のみならず鈴音をも同時に発生させるので、従来のもものでは全く得られない微妙なる音を出し、楽器としても面白いものであり、十分に乳幼児の耳をも楽しませることが可能である。

従来のいわゆるおしやぶりでは乳幼児が主としてこれを用いているため、短時間で倦きてこれを投げ出していたが、本案品では笛や鈴をも兼ね備えているので、たとえ口から離しても、玩具として相当長時間を遊ばせることができ、しかも構造は簡単で取扱も容易であり、しかも握り把柄4が設けてあるため極めて衛生的でもあつて実に理想品と言える。

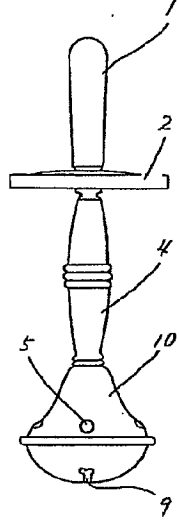
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す如く鍔体2の中央に円孔3を穿設して長乳房状ゴム体1を嵌込んだおしやぶりにおいて、その円孔3に握り把柄4をゴム体1の内側へ挿入して固定させ、把柄4の他端は鈴体10の窪溝7に定着し、而して鈴体10はその内部を笛音発生板6にて区割し、その一側には小孔5を穿設し且つその小孔5より大なる鈴玉体8を内包せしめ、他側には吹口9を穿設して成るおしやぶり付笛入鈴玩具の構造。

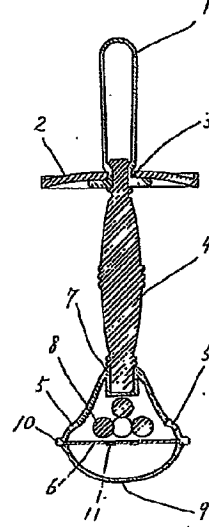
第1図



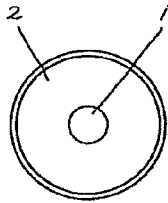
第3図



第5図



第2図



第4図

